

中和地区 3 市 1 町障害者自立支援協議会
令和 4 年度 第 5 回相談支援部会 会議録

令和 5 年 2 月 7 日（火） 10 時～
開催場所：大和高田市役所 会議室

出席団体：中和圏域マネージャー、生活支援センターなっつ、葛城市社会福祉協議会、まんだらトポス、生活支援センターもちつもたれつ、青垣園、葛城育成会、どんぐり、相談支援センターふわら、しえ〜く、葛城市社会福祉課、広陵町社会福祉課、高田市社会福祉課、香芝市社会福祉課、香芝市社会福祉協議会

1. 各連絡会の報告等（今年度のまとめと来年度に向けて）

- ◎大和高田市
 - ・緊急案件、つながりの場について
 - ・地域生活支援拠点のケース会議の事例について
 - ・相談員同士が顔の見える関係作りをして繋がる事が出来るように今後していきたい。

- ◎葛城市
 - ・豊中市のワーカーの新聞記事回覧
 - ・地域移行の DVD を視聴した。
 - ・地域生活支援拠点の事例調査
 - ・成年後見について（次年度）

- ◎香芝市
 - ・児童と大人と分けて、グループワークを開催した。
 - ・相談員同士の交流も兼ねて、来年度は開催を増やす予定で検討している。

- ◎広陵町
 - ・子育て包括支援センターを設立したので、各機能の紹介をし情報を共有した。
 - ・重層的支援体制について
 - ・相談員だけの集まりだけではなく、各事業所など参加者を広げていけたらと考えている。（次年度）

2. 研修会の開催を終えて（感想等）

- ・早い段階から取り組みをされていると思った。
- ・基幹相談は必要か？
- ・体制が充実していると思った。細かい支援をされていると思った。
- ・ボランティアの活動を活発にされていると思った。

- ・委託との情報共有が出来ている。
- ・相談員が孤立しないようになっている。
- ・一本化している事は良いと思った。
- ・無駄がないと思った。
- ・社協だから出来ることに取り組まれている。
- ・元事務局長の社協がどうあるべきかのスローガンが良いと思った。
- ・行政と委託との連携が出来ている。
- ・インフォーマルな資源を有効活用し、地域の人と上手に取り組めている。
- ・アウトリーチという言葉は初めて知ることが出来た。
- ・氷見市の人口が葛城市と変わらないのに、施設の数が多いので充実していると思った。
- ・地域のつながりが強いイメージがあった。
- ・香芝市にも民生やボランティアなどたくさん活動されている。
- ・何でもない時からの関わりがあるから、困った時に踏み込むことが出来るのではと思った。
- ・資料を見て、「話を聞くことで済んだ」人の割合が多く、傾聴の大切さを感じた
- ・今まであった地域の特性を上手く活用出来ていたと思う。
- ・3市1町の中で基幹相談が必要なのかなと思った。
- ・奈良県は遅れていて、奈良市しか基幹がない。協力体制や委託費など考える課題が多い。
- ・「社協は住民の為にある」の言葉、行政もこういう熱い思いが必要だと思った。
- ・今ある社会資源を整えていくことが重要だと思った。
- ・氷見の寒ブリが有名で、ブリの皮でフィッシュレザーを作り町おこしをして活性化している。
- ・町の社協は、氷見市のようにまだ実際のところまだまだ機能出来ていないように思った。
- ・いろいろな立場の者によって重層的支援の捉え方が違うように思う。
- ・市では具体的な話は進んでいない。
- ・基幹相談支援センターの設置を目指している。
- ・他府県はセンターの設置が進んでいて、和歌山県もそれぞれの場所に配置されている。奈良県は遅れている。
- ・委託相談も明確ではない。主任相談支援員の役割。
- ・氷見市は先の進んだ体制がとれている。

3. その他

◎全体会について

- 1部 部会報告
- 2部 グループワーク（所属グループの確認）
- 3部 事業所体験会（各事業所への周知呼びかけ）

◎奈良県主任相談支援専門員研修修了者

- ・なつつ 鎌田氏

- ・葛城市社社会福祉協議会 高橋氏
- ・もちつもたれつ 大竹氏
- ・青垣園 堀氏
- ・ふわら 秋本氏

◎来年度以降の展開

- ・インフォーマルな部分の活用
- ・相談員の人数が増えていけば・・・相談員の孤立化を防ぐ。
- ・アウトリーチ、普段から活動を充実させていく。困ってからの対応では遅い対応になってしまう。
- ・計画をしてからの対応ではなく、対応してから計画がついてくるのが理想的。ニーズから体制を整えていく。
- ・GSVで取り組んでいる様式のやり方を身に付けることが出来たらと思う。各連絡会や事例検討会で活用出来たらと思う。

※ 令和5年度 第1回相談支援部会は、6月頃を検討している。

以上